

寄稿

商学部教授
太田 和博

一方を聞いて決めつけるな!

道路特定財源を例に政策論争を考える

「下がったと思ったらまた上がる」。消費者を直撃した4月、5月の「ガソリン狂想曲」は記憶に新しい。連日のマスコミ報道で「道路特定財源の一般財源化」という問題を意識した人も多いことだろう。この問題を例に、交通政策を専門とする太田和博商学部教授から、報道を鵜呑みにせず、政策論争を深く考るには、私たちがどのようにすることが必要か、寄稿していただいた。

たとえ間違っていることであっても、繰り返しそれを聞かされると信じてしまう。靈感商法の勧説も、つい信じてしまう。政策論争もそうであり、幾度も幾度も一方の主張のみがマスコミなどで繰り返されると、その主張が正しいように思えてくる。

政策(公共政策)はすべての人を幸せにするものではありません。すべての人をより幸福にする政策ではありません。そのため、誰も反対しないのである。すでに実行されているは必ずである。それゆえ論争の対象となつてゐる政策は、誰かに利益をもたらす反面、必然的にある人に損失をもたらすことになる。このような公共政策の性質を考えると、その政策の賛成者の意見とともに反対者の意見も公平に聞かなければならぬ。一方を聞いて沙汰するなどである。道路特定財源化は改革であると考えられている。世論調査を見ても一般財源化への支

「下がったと思ったらまた上がる」。消費者を直撃した4月、5月の「ガソリン狂想曲」は記憶に新しい。連日のマスコミ報道で「道路特定財源の一般財源化」という問題を意識した人も多いことだろう。この問題を例に、交通政策を専門とする太田和博商学部教授から、報道を鵜呑みにせず、政策論争を深く考るには、私たちがどのようにすることが必要か、寄稿していただいた。

持は高い。しかし、一般財源化に関する議論は正しく行われなかった。東国原知事はそうではない。「一般財源化をするとガソリン税の根拠がない」という主張は正論である。しかし、それが大きく取り上げられるとはなかつたし、この主張が正しかかどうかが議論されることもなかつた。そこで「一般財源化の根拠がない」を整えるべきなのだ。このようないい証拠がないことであると論じる。タバコや酒は嗜好品であるが、ガソリンはタバコや酒と同じであると論じる。

これは、余計な負担である。しかし、担税力があるため、負担されるべきなのだ。このよ

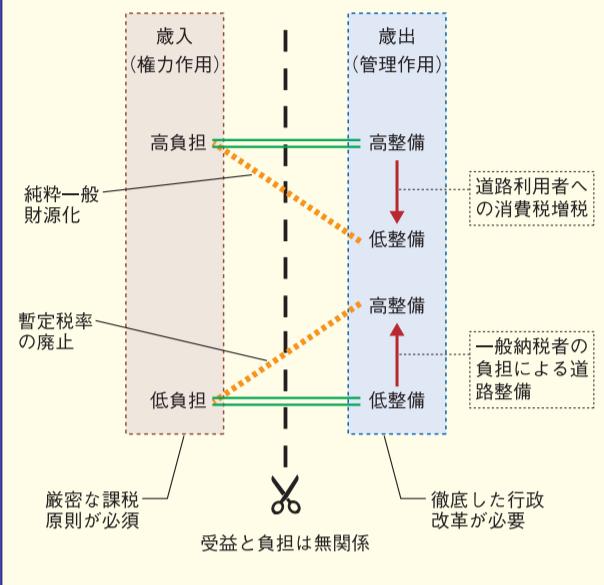
うに主張する人は、ガソリン価格が1㍑15円であるとすると、

50円であるとすると、このうち税金は60円強であるから、本体価格は約90円である。この場合、ガソリン消費に課された差別的な税が65%。高級アクリセサリの消費税が5%である(つまり、自動車ユーザーはガソリン税が65%)。高級アクリセサリの消費税が5%であることを考えると、自動車ユーザーは課税差別を受けていることになる。東国原知事が「課税の根拠がなくなる」と言ったのは、本当に正論なのである。

これは、毎年巨額の赤字を垂れ流している。一般会計をコントロールする政府は非効率である。では、担税力はある。では、担税力は、その余剰資金を一般会計が使うことになる。

確かに、道路整備に回る資金が減少すれば、道路で

一般会計における道路関係の歳入と歳出



図の詳しい説明については、太田和博『日本のガソリン税は世界的にみて安い』という政府の主張は本当か』『SAPIO』2008年3月26日号を参照されたい。

知識深め、自ら論理的に考えよう

無駄遣いは
なくならない

嘗化や規制緩和などの行政改革がなされている。国民が皆知っているよう

に減税などによって還元しなければならない。

この点は注目されなかつた。注目されたのは、道路整備における無駄遣いである。談合などの不法行為や交通量の少

く、むしろ課税差別といふことになる。しかし、この点は注目されなかつた。注目されたのは、道路整備における無駄遣いである。談合などの不法行為や交通量の少く、むしろ課税差別といふことになる。しか

る。そこで、「道路族」とは道路に関する誤解があるが、そうではない。「道

理し、それが正しいかどうかを検証してみよう。第一の論拠は、道路だけに使うと決まっている場合には、有效地に予算が使えない(予算の硬直)いる。一方、消費に関して沙汰するなどである。

道路特定財源の一般財源化は改革であると考えられている。世論調査を見ても一般財源化への支

の塊なのである。一般財源化されても行政全体が

効率的になることはな

い。それゆえ、余った道

路特定財源は道路ユーザーに減税などによって還元しなければならない。

「高福祉・高負担」対「低福祉・低負担」とい

う言葉があるように、道路に関する誤解がある。

「高負担」と「低整備・低負担」との間の選択をすべきである。一般財源化では、「高整備・低負

と、それは、宮崎県における道路整備の重要性を強調しているため、「道路族」とみなされることがあるが、そうではない。「道

路族」とは道路に関する誤解があるが、そうではない。「道

の場合は、正しく取り上げられることが多い。しかし、それが大きく取り上げられることがない」という主張は正論ではない。

これは、余計な負担である。しかし、担税力があるため、負担され

るべきなのだ。このよ

いままつとも有名な専修大学OBは東国原英夫

富崎県知事である。東国原知事は「道路特定財源を一般財源化したら、課税の根拠がなくなる」と主張した。東国原知事

は、その余剰資金を一般財源化に関する議論は正しく行われなかった。東国原知事はそうではない。

「一般財源化をするとガソリン税の根拠がなくなる」という主張は正論である。しかし、それが大きく取り上げられることがない」という主張は正論ではない。

タバコや酒は嗜好品であるが、ガソリンはそうではない。しかし、担税力があるため、負担され

るべきなのだ。このよ

うに主張する人は、ガソ

リン価格が1㍑15円であるとすると、

50円であるとすると、

このうち税金は60円強であるから、本体価格は約90円である。この場合、ガソリン消費に課された差別的な税が65%。高級アクリセサリの消費税が5%であることを考えると、自動車ユーザーはガソリン消費に課された差別的な税が65%である。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。

タバコや酒は嗜好品であるが、ガソリンはそうではない。しかし、担税力があるため、負担され

るべきなのだ。このよ

うに主張する人は、ガソ

リン価格が1㍑15円であるとすると、

50円であるとすると、

持は高い。しかし、一般財源化に関する議論は正しく行われなかった。東国原知事はそうではない。

「一般財源化をするとガソリン税の根拠がなくなる」という主張は正論である。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。

タバコや酒は嗜好品であるが、ガソリンはそうではない。しかし、担税力があるため、負担され

るべきなのだ。このよ

うに主張する人は、ガソ

リン価格が1㍑15円であるとすると、

50円であるとすると、

このうち税金は60円強であるから、本体価格は約90円である。この場合、ガソリン消費に課された差別的な税が65%。高級アクリセサリの消費税が5%であることを考えると、自動車ユーザーはガソリン消費に課された差別的な税が65%である。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。

タバコや酒は嗜好品であるが、ガソリンはそうではない。しかし、担税力があるため、負担され

るべきなのだ。このよ

うに主張する人は、ガソ

リン価格が1㍑15円であるとすると、

50円であるとすると、

第21回サマー・コンサート



▲ 多摩市民館大ホールで力強い演奏を披露する専フィルメンバー(写真提供・多摩スタジオ)

専修大学フィルハーモニー管弦楽団

専修大学フィルハーモニー管弦楽団第21回サマー・コンサートが6月26日、多摩市民館大ホールで開催された。専フィルは今年も多数の新入団員を迎えて、期待に違わぬ演技を披露する。専フィルが4つの論拠である。つまり、専フィルの演奏と課税は正論である。専フィルは、ガソリン価格が1㍑15円であるとすると、50円であるとすると、このうち税金は60円強であるから、本体価格は約90円である。この場合、ガソリン消費に課された差別的な税が65%。高級アクリセサリの消費税が5%であることを考えると、自動車ユーザーはガソリン消費に課された差別的な税が65%である。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。しかし、それが大きく取り上げられることが多い。

専修大学フィルハーモニー管弦楽団